

月曜かい

野外活動における自然(環境)との向き合い方

2024 年10月7日

樹脂製造部 業務課 熊本

うだるような酷暑もようやく終わりの兆しが見え、朝、夕の気温も大分下がり始め、秋の行楽シーズンが始まろうとしています。皆さんの中でも釣り、紅葉狩り、BBQ、キャンプ等計画されている方もいらっしゃると思います。

さて本題ですが、昨今のアウトドアブームも大分落ち着いて来ましたが色々な問題が発生しています。自然の中で野外活動をする際の問題点やマナー、解決方法等をキャンパー目線で書かせて頂こうと思います。

1. ゴミ問題

キャンプ場や野営場、河川敷(河原)でキャンプやBBQ等楽しんだ後、道具や食材、焚火や炭の燃えカスを片付けずそのまま放置し手ぶらで帰っていく方々が居られます。



ゴミを放置したままだと、野生動物が寄ってきてゴミを食い荒らして散乱させペットボトルや食品トレー等のプラスチックゴミが川や海に流入し、多々の環境問題が発生します。また野生動物が餌場と勘違いし頻繁に出没するようになれば、安全に楽しむ事が出来なくなってしまいます。

上記のような問題が起こり、制限や閉鎖されたキャンプ場や河川敷もあるので、持ってきた物は持ち帰る事を基本に適切な処理を行いましょう。

(※キャンプ場によっては捨てられる場所もあり、要確認を。)

2. 火をおこし、焚火をする際のマナー及び処理の仕方

BBQ や焚火で火をおこす際、場所を選んでする事も重要です。

周りに燃えやすい草木から離れた場所で行う事。

着火剤を使用する際には着火する前だけに使用し、継ぎ足しを行わない事。

(揮発性・燃焼性が高い物が多く、炎が大きくなったり衣服に燃え移る可能性がある為)

バケツを用意し、万が一の事故にも備えて下さい。

焚火をする際は焚火台を使用し、防災防熱シートも使用しましょう。(基本的に直火でする事は NG です。※但しキャンプ場によっては可能なところもあるので必ず確認して行ってください)



↑直火をし、火災になってしまった事例



↑一般的な焚火台と焚火台シート。物によっては下の芝生が焼けてしまうので注意が必要です。

燃え残った炭や薪を埋めたりその場に放置される方がいますが炭化した物は何年たっても自然には帰りません。また鎮火していない状態で放置すると、火災や土壤にダメージを与える恐れがあるので、火消し壺やキャンプ場によっては灰捨て場があるので鎮火させてから処理を行ってください。

持って帰った場合は自治体のルールに従って処理をお願いします。

福山市の場合は灰(鎮火状態で)に水をかけポリ袋に入れ、燃えるゴミの日に出せるとの事です。

補足 使い終わった食器やBBQ台など洗い場のないキャンプ場や河川等で BBQ に使ったグリルや食器など、近くに流れる川で洗われている方を時々見かけます。

川が汚れるだけでなく、動植物にも影響を及ぼすのでキッチンペーパーやアルコールティッシュ等で汚れを拭き取り、家に持ち帰ってから洗う様にしましょう。

ルールを守り環境にも配慮して、アウトドアライフを楽しみましょう！